

当院における統合失調症の集団認知行動療法の効果

○伊藤恵理、奥村弓恵、都築誠、根本忠典、奈良岡妙子、太田健介、太田耕平
医療法人耕仁会 札幌太田病院

【はじめに】

当院では、2005年から統合失調症の集団認知行動療法（CBGT）を導入し、2012年1月に「ポプラの会」と命名した。1クルールの回数・使用テキストの変更、内容の改善、実施時間の調整などの工夫をしている。セッション毎の内容理解度・参加態度の自己評価（5段階）、病気の知識に関するテスト（4～5問）、初回と最終回の理解力テスト（15問）を新規採用した。今回、CBGT参加者の治療効果について報告する。

【方法】

週2回、1クルール8回のセッション、1回30分程度。対象は、統合失調症と診断された入院者が中心。デイケアメンバー、退院者も参加可能。平均参加人数は9.9名。医師、薬剤師、心理士などが担当。病棟内内観療法、学習会（十段階心理療法）、ピア・サポート、作業療法など、治療プログラムの一部として実施している。

【セッション内容】

- 第1回：オリエンテーション、理解力テスト
- 第2回：統合失調症の概要、個別分析
- 第3回：陽性症状（幻聴・妄想）、体験発表
- 第4回：陰性症状、体験発表
- 第5回：症状の対処方法（学習会・内観療法の効果）
- 第6回：薬の作用と効果、必要性
- 第7回：薬の副作用、対処方法
- 第8回：まとめ、理解力テスト

【結果・考察】

初回テストと比較し、最終回の正答率が高かった。短期間による短い時間での実施から参加の負担、抵抗の軽減、プログラム簡略化による集中力保持、学習内容の明確化、理解力テストの実施を事前に告知したこと、などが意欲向上、理解の促進に繋がり、得点の上昇に繋がったと思われる。「幻聴や妄想を自覚し、行動が左右されなくなった」、「孤立せず、病棟内のプログラムに積極的に参加するようになった」など、病識の獲得、入院生活態度が改善した。参加者の体験談から、仲間意識や安心感が高まり、治療に取り組む姿勢が強化され、症状の回復に繋がったと思われる。今後は、予後調査を実施し、退院後の効果の持続を検討したい。